

公民「公共」単元の評価規準

内容のまとめり	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A 「公共の扉」	(1) 社会で生きるということ	○自らの体験などを振り返ることを通して、青年期として今を生きる自分の在り方、生き方について理解している。 ○人間は一人の個人であるとともに、社会の一員でもあることから相互に尊重されるべき存在である。社会は対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる存在である。そのような社会で伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。 ○自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。	○社会に参画するとは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により社会形成に貢献できる一員として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。	○公共的な空間を作る私たち、公共的な空間における人間としての在り方生き方、公共的な空間における基本原理について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	(2) みんなが幸せな社会とは	○選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ○現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、共同体はさまざまな価値観をもつ個人の集まりであることを踏まえ、自らの考え方を活用することを通して、それぞれ個々の人間としての在り方、生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。 ○人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる個々として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	○倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。	
	(3) 公共的な空間における基本原理	○各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 ○人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本原理について理解している。	○公共的な空間における基本原理について、具体的な事象をあげることによって考察を深め、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に捉え、表現している。	

B 「よりよい社会の形成と参画」	私たちの生活と法	○法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成・維持されていくことについて理解している。 ○【技能】現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	○法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	○現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	主として政治に関する事項	○政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。 ○【技能】現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。（再掲）		
	主として経済に関する事項	○職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 ○【技能】現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。（再掲）		
C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	持続可能な開発目標	地球規模で進む、環境破壊、温暖化問題についての現状把握ができています。	○地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。	○持続可能な社会について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。